

家の仕事 おもしろく

土曜日の生活面で「家のしごと相談所」がスタートしました。好き嫌いにかかわらず、乗り切っていかなければならないのが「家のしごと」。時間と道具とマンパワーのやりくりを、おもしろがるにはどうしたらいいのでしょうか。家事の専門家に聞きました。（聞き手・長沢美津子）

専門家にコツ聞く

家事塾主宰

辰巳渚さん（45）



みんな家事はやっているのに、達成感がない。自分のやり方でいいのか自信がない、だから子どもに伝えられない。変えたいですね。

家のことって生きること。大人のやり方をみて、自然と身につけていくという伝承が途切れたなら、新しくつなぎ直してあげたい。本の情報だけでは人はなかなか変わらないので、直接伝えようと親と子に向けた「お手伝い塾」

原則がわかれば気持ちいい

を始めました。

塾の柱は、自分で自分のことをする、家族のために役に立つ、体を動かすの三つ。つまりは自立の準備です。ほこりは上から下に落とすとして集めるとか、洗濯では汚れを移さないとか、原則がわかれば応用も利く、仕事や人間関係にもつながっていくはずですよ。

私は掃除が大嫌い。でも道具は大好きで、好きなはたきの柄を持てば、つい振り回したくなる。そんな風に、自分をのせて乗り切ってきた。生活時間の変化で、夜に窓を閉めて家事をする人が増えていきます。けれど、はたきを使えば、窓を開けて、外の空気を取り込んで、ああ気持ちいいなと実感できる。当たり前のことが、大事です。